



## ■自動盤業界の市況

国内の自動盤業界全体の仕事量は昨年夏過ぎより減少し10月・11月の落ち込みは特に激しかった。昨年前半がよかった分、よけいに厳しく感じた。

12月に入り若干ではあるが上向きの傾向が見え始めている。まとまった量の仕事は少ないが止まっていた小ロットの難しい部品の引き合いが増え始めた。

今年の予想は、前半の仕事量に大きな回復は見えないと思われるが後半には右肩上がりになると予想する。2017年度にトヨタをはじめ多くの自動車メーカーで大きなモデルチェンジが重なる。

これに先駆け自動盤業界でも関係者は本年後半から仕事量の増加を見込んで準備している。

現在も新型プリウスは6ヶ月待ち。シエンタの売り上げも好調、これらに関わっている方々は多忙である。

工作機械全体の販売量でも景気の先行きが観えて来る。

昨年は省エネ補助金の追い風がありスター精密をはじめ絶好調の機械メーカーが多かった。

日本の工作機械販売のよし悪しの目安である売上1千億円/月はクリアしてきた。

しかし2016年度の補助金の予算枠も観えてきた事から急がない設備投資は控える会社が多い。

山善・ユアサをはじめとする工作機械の大手問屋でも注残が減少して来ている。

海外に目を向けると、中国経済の落ち込みが我々にも影響している。しかし中国向けの自動盤の出荷については落ち込んではいない。これは中国の人件費の高騰に伴い、設備導入して合理化し利益を確保する動きが強くなった影響である。円安、中国の人件費の高騰と重なり日本での加工も競争力をつけ始めている。しかし低コストを求め大手が投資した工場は中国を含む海外にあり、我々に出番が回ってくるのはまだ先である。

フォルクスワーゲンの不正問題でワゲン関連製品の落ち込みを心配していたが昨年末迄は大きな落ち込みは無かった。しかし今年からはドイツのみならず日本国内でも影響が出ると思われる。

少し前から日本の状況だけで業界の動きは判断できず世界的に影響を及ぼしあうようになってきた。

業界全体の流れとしては後半の右肩上がりを期待しながら準備を進め、平行し種まきを怠らなければ悲観的な年にならないと思われる。

自分達の特性に磨きをかけ、独自性を出していけば環境は変化してもどこかに必ず自分達の役に立てる場所があるはずだ。



## ■機械保全の基本・作業前点検について

皆さんは自動車に乗る時、タイヤの空気圧は十分か、エンジン始動時に異常音はないか、ブレーキの利き具合は良好か、また雨の日のワイパーの動作具合は問題ないか、ウィンドウォッシャー液は不足していないかなどをチェックすることはないですか？

自動盤はミクロン単位の高精度部品を加工する装置です。自動車に乗るときの様に、あるいはそれ以上に注意深く機械の状態を知っておく必要があります。

始動前点検をすることにより機械がいつも良い状態を維持し、常に精度良好な部品加工が出来ることを認識してください。下の表に簡単に出来る日常点検項目を記載させていただきました。電源投入したとき、あるいはアイドル運転を行っているときにチェックしてください。



チェック項目	点検内容	実施事項	備考
潤滑油タンクの油量	タンク油面上下限ライン内か	逐次補充	油脂の種類に注意
切削油タンクの油量(注)	タンク側面の油量計	補充	↑
油空圧メーターの指針	メーター指定圧力のマーカー	再調整	取扱説明書参照
切削油の吐出量	コック全開で吐出量は十分か	吐出量	機械メーカーに連絡
主軸回転時の異常音	アイドル運転中	異常音の有無	↑
回転工具の異常音	↑	↑	↑
各動作軸(X,Z軸等)	↑	↑	↑

(注) 切削油タンクの油量チェックはクーラントポンプ停止後しばらくしてから実施してください。クーラントポンプ停止直後は機械内部を切削油が循環していますのでタンク油面が低下し正確な油量を確認できないのでご注意ください。